かんぼう
いまい
No.378
今井公民館
館報編集委員会
電話 59-2001
FAX 59-1004

今井地区戦没者慰霊祭

4月20日（日）に今井地区町会連合会の主催により、戦没者慰霊祭が来賓のご臨席のもと今井小学校正門南にある忠魂碑前で厳かにとりおこなわれました。

次第に従い、祭主（さいしゅ）祭文（さいもん）、慰霊の辞の後、宝輪寺、正覚院のご住職による読経のもと、お焼香が行われました。

本年は、先の大戦の終戦から80年目となる節目の年となりました。

戦前、戦中世代の高齢化で記憶の風化が懸念される中、次世代へ歴史や教訓を継承する重要性を再認識するとともに、世界の恒久平和を願うものです。

【忠魂碑】

戦没者の慰霊を目的として、帝国在郷軍人会今井村分会により建立。除幕式は大正元年（1912）12月15日。第2次世界大戦の終戦後間もなく当時の状況から、前に倒し埋め伏せる。その後今井村慰霊会により、昭和28年（1953）4月に掘り出し、現地に再建した。この碑は、日清役・日露役・大東亜役と記し総員121名の氏名を刻み犠牲者の慰霊を行っている。

今井地区誌より抜粋

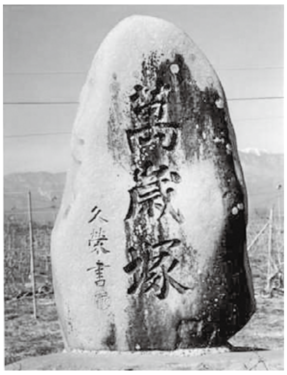
戦後80年を迎えて

今井に残る、戦争を伝える史跡について寄稿していただきました。

萬歳塚（ばんざいづか）

萬歳塚の石碑が建てられたのは大正4年（1915）ですが、それ以前この場所には石を積み上げたヤツカが有り、今井村の村外れでもありましたので、日清・日露戦役の頃から出征される兵隊さんは、ここで見送りの皆さんに別れを告げていたと伝えられております。

村役場で壮行会を行い、ここ迄旗の波に送られて来たのでしょう。そしてこの塚で別れの言葉を述べ、萬歳の歓呼の中を旅立って行ったとの事です。又帰還の折もここで出迎えを受けたと言われております。帰還は白木の箱での帰還もあり、それもここで出迎えを受けた様です。この壮行会・見送り・出迎えには小学生も動員されていた様です。今井小学校に保存されております「今井国民学校日誌」には、出征兵士の壮行会への児童達の参加の記録が残されております。昭和19年（1944）26回、昭和20年が7回記録されております。遺骨の出迎えは昭和19年4回、昭和20年には7回の記録が有ります。見送りは低学年は下今井諏訪神社迄、高学年は萬歳塚迄赴いた様です。



【文化財委員会委員長　原　勝美】

北風南風

健康的な生活を送るため、生涯にわたり楽しみながらスポーツに親しむ「生涯スポーツ」という考え方がある。年齢に関係なく体力向上は可能だという。適度な運動は基礎代謝の低下を防ぎ、ストレス解消にもなる。私もシニア世代と呼ばれる年齢になった。無理のない程度で有酸素運動や筋トレを習慣化したい▼現在は縄跳びを2年程継続中。昼休みに10分間だけと決めて始めたら、意外と苦にならない。日常の歩く速度や歩幅も気にしている▼歌うことも有酸素運動になるとのこと。腹式呼吸を意識すると効果的らしい。一人カラオケで思いっきり歌うのもありかもしれない▼空き時間の簡単なストレッチ、ラジオ体操のような全身運動も十分な健康効果がある。実は現在、ご当地ソング「今井の父ちゃん」に合わせて行う体操を今井の有志が考案中である。地区にこのような曲が存在するのは珍しく、貴重だと思う。ドンパン夏祭りや文化祭での披露に向けて頑張っているのでお楽しみに▼運動は楽しく続けることが大事。効果は後からついてくる。（T・M）

ご挨拶

今井地区保健師

櫻井 まゆ子

4月から健康づくり課に配属になり、今井地区担当保健師をさせていただくことになりました櫻井まゆ子と申します。よろしくお願いいたします。「櫻井」は今井地区に多い姓で、馴染みがあることをお聞きし、とてもうれしく思っています。ぜひ、お気軽に声掛けいただければと思っています。

西部保健センターと今井出張所に席があり、今井地区には週2、3日程度出向き、地域の様々な事業等に参加させていただいています。また、健診受診のＰＲを行い、公民館やつどいの広場で健康相談会も開いています。早く今井地区のことを知り、みなさんが住み慣れた地域で健康でイキイキと暮らせるお手伝いができればと思っています。

保健師は全世代の方々を対象とさせていただいています。健康に関する心配なことがあれば些細なことでも構いませんので、いつでもお声掛けください。

第78回今井地区支部対抗球技大会

7/6(日)

●**ソフトボール**（36歳以上）
優勝 北耕地　準優勝 南耕地

●**ソフトボール**（年齢制限なし）
優勝 南耕地　準優勝 北耕地

●**女子バレーボール**
優勝 境新田　準優勝 下新田

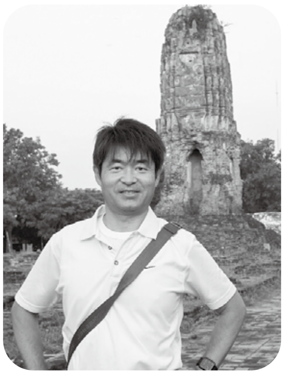
つぶやき

No.298

「仕事とお楽しみ」

上條 孝紀
（上新田）

私は昨年33年間勤めた会社を早期退職してブドウ栽培と、親交の有った取引先で非常勤をしています。友人からは「もったいない。なぜ辞めたの?」と聞かれます。答えの一つは私が専門としていた製品を外注に移管することになり、私がその旗振りを成し遂げたこと、二つ目は子供達が社会人となり生活の安定を見極めることができたことが理由です。



幸い会社勤めは環境に恵まれ、香港、中国（2回）、タイに駐在しました。コロナ禍はタイに居ましたが、国から大都市の商店に閉鎖命令が出た時は、スタッフが私の為に封鎖されていない地方に買い物に行ってくれました。現法ルールで旅行が禁止された時でも「上條さんは後2年で日本に帰るから」と言ってスタッフが連休の度に観光地を案内してくれました。駐在先では現地スタッフに良くして頂き、この人脈は私の財産の一つです。今は現地スタッフが来ると、私が観光地を案内しています。身近な上高地や善光寺を案内しただけで充実した気持ちになります。仕事の合間には、家族や仲間と多くの観光地を巡りたいと思います。

阿寺渓谷ウォーキング

5月27日に阿寺（あてら）渓谷ウォーキングがあり、20名が参加しました。昨年、企画されていましたが、雨で中止なったので今年こそはと楽しみにしていた人もいました。

車一台がやっと通ることができるほどの狭い道を渓谷に沿って上って行きました。生い茂った木々ときれいな川や滝を見ながら、赤彦歌碑駐車場へ着きました。ガイドさんお二人は大桑村在住で、他に10人ほどいて、野尻宿や須原宿などを案内することもあるそうです。お一人は、ガイド歴は短いそうですが、植物、樹木がお得意の分野で阿寺渓谷をガイドするのが楽しみだということでした。

川に下りてすぐに吊り橋があり、遊歩道へと入りました。樹木が生い茂り、辺りは薄暗く、足元は根っこで歩きにくくなりました。また、パイプで組んだ階段は急で息が切れました。植林されたヒノキの林は、幹がまっすぐに空に伸びてきれいでした。わき道に入り、六段の滝を見ました。ヒノキとサワラの見分け方やクロモジとシロモジの違いを教わりながら下っていくと、バイカオウレンとイワウチワの群生がありました。4月中、下旬に咲くそうです。河原に下りると川底が透明で、大きな石の淵はエメラルドグリーンに輝いていました。

昼食をすませ、コウヤマキの原生林を見に行きました。見上げるほどの高い木で、足元一面の細長い葉は深く積り、長い年月を感じました。帰りの山道ではヒメシャガの花が見頃でした。

参加者は「阿寺ブルーを見るのが念願で一度は見たいと思っていた。山道は険しかったけれど頑張りました」（80歳代）と感想を話してくれました。

ヒノキの植林